

“沖縄小児保健賞”

沖縄小児保健賞は、沖縄県小児保健協会が平成4年に第44回保健文化賞（主催＝第一生命保険相互会社 後援＝厚生省 朝日新聞厚生文化事業団NHK厚生文化事業団）を受賞したのを記念し、平成5年に設定しました。

この賞は、沖縄の小児保健活動に著しく功績があった者で、今後も引き続き活動が期待される個人または団体を顕彰するものです。

令和2年度沖縄小児保健賞

《個人の部》

志茂ふじみ 公益社団法人沖縄県看護協会

平成22年から公益社団法人沖縄県看護協会において、これまで県立病院勤務で培ってきた知識、技術を生かし訪問看護支援事業、#8000子ども救急医療電話相談事業に従事し小児の保健医療福祉の充実に貢献した。

平成22年7月沖縄県が開始した「小児救急医療電話相談 #8000」のコーディネーターとして開設時から約9年間に亘り、相談員の確保、新人相談員への教育指導、当該事業の受託機関である医師会との連絡・調整等県の小児救急医療体制の確保、保護者への支援等に多大な貢献をしている。また、自らも相談員として保護者からの小児の急病、ケガ等に対する電話相談を受け、家庭での対処方法や医療機関受診にかかる助言・指導を行い保護者が安心して子育てができるための支援を行っている。

また、訪問看護支援事業を担当し、在宅療養環境の推進体制整備を図った。特に、小児在宅移行推進のために多大な貢献をした。

《団体の部》

認定特定非営利活動法人子ども医療支援わらびの会

理事長 真栄田篤彦

同団体は、2005年8月、前身の「母子総合医療センター設立推進協議会」を発展解消し、障がい児者16団体で「特定非営利活動法人子ども医療支援わらびの会」を設立し、沖縄の子どもたちが安心して十分な医療が受けられるよう、病児やその家族の支援に関する事業を活発に展開している。

遠隔地病児家族等の宿泊施設であるファミリーハウス「がじゅまるの家」は、離島や遠方から県立子ども医療センター等に入院・通院する病児とその家族が心身ともに安らぐことができるわが家同様の滞在施設として運営しており、開所以来これまでに延べ約54,000人（病児8,340人含む）が利用している。利用者は沖縄本島・離島はもちろんのこと北海道から鹿児島県まで39都道府県、特に鹿児島県の離島・奄美諸島（奄美大島、徳之島、沖永良部島、与論島）は年間延べ約1,000人を超え利用している。その他外国からの利用者（観光客が病気や事故による）も年々増加している。

また、一方で、子ども病院ボランティア養成講座を積極的に開催したり、難病や障がいのある子どもと家族を支えるための活動、沖縄県小児慢性特定疾病児自立支援事業に係るピアカウンセリング事業、「北部親の会綾」等の活動も実施している。